

## 博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	岩田 和子
論文題目	湖南説唱本研究
審査要旨	
<p>本論文は、清末民国初期の湖南省で大流行した説唱(語り物芸能)の読み本が、清代説唱文芸史において果たした役割に関し、出版の状況、物語の生成、流布、改編および物語の他地域との相互影響関係の面から、考察したものである。</p> <p>本研究の意義については、以下のことが言える。中国白話文学史において、清代における説唱文芸の隆盛と流布は、文化現象としては大きく取り上げられるテーマではあるものの、物語内容の研究においては、従来伝承されてきた物語の継承と改編(焼き直し)として見られることが多く、物語伝承史の末端に位置づけられるか、或いは清代に新たに創作されかつ文学性が高いとみなされた作品が注目されがちであった。しかし、近代以降現代に至るまで伝承されている物語の多くは、清末民初の説唱文芸による改編と流布のプロセスを生き残ってきたものであり、その実態を考察することは、軽視できない。本論文の意義の一つは、この清代の説唱文芸史における物語の継承と改編に対して、文学性の低い二次創作といった先入観なしに、ニュートラルに清代の文化現象の特色の一つとして捉え、湖南説唱本の生成と流布の解明を通じて、清代説唱文芸の意義や役割を捉え直そうとした視点にある。また、清末民初説唱文芸の研究においては、中国北方の鼓詞と子弟書、江南の弾詞、宝巻、広東木魚書がもっぱら注目されるどころであり、内陸部の説唱本の生成、流布については、さほど取り上げられてはこなかった。湖南説唱本の存在自体は、夙に知られたものであるが、研究面では版本の収集整理と書目の刊行の段階で止まったままであり、説唱本の形成、流布の課程や、物語内容まで踏み込んだ文芸研究は皆無であった。甚だしくは、「白蛇伝」や「梁祝」故事のように、中国全土に多様な芸能媒体で流布する代表的な民間文芸作品の学術的資料集においてすら、湖南説唱本資料が収録されていない状況を呈しているのである。従って、本論文は、従来「地域文芸の貴重な資料」とされながら、具体的な実態が解明されていなかった湖南説唱本の成立の全貌に初めて正面から体系的に取り組み、今後の研究の扉を開いた基礎研究としての功績を認められるものである。</p> <p>本論文は、湖南省が地理的にも南北文化流通の要所にあることと、湖南省独自の地域文化に着目し、湖南説唱本の中でとりわけ流行した物語ジャンルや物語シリーズを取り上げ、小説、演劇など他ジャンルとの関わり、物語形成と改編の実態、出版の主旨や背景を考察することで、湖南説唱本が出来上がって来る動的プロセスを文芸形成の一種のモデルとして提示しようと試みている。</p> <p>第1章では、まず従来の湖南説唱本書目に加え、新たに日本の所蔵本を含め収集目睹したテキストを加えて281種424冊に上る存目を再整理し、湖南説唱本の出版活動の全貌を明らかにした。さらに、流行した物語内容では、世話物、公案物に顕著なシリーズ化の様相があることを明らかにした。これらの収集資料は、「湖南説唱本目録(稿)」として巻末に付されており、既存の書目を補うと共に、今後の湖南説唱本研究や個別の作品の資料集編纂に寄与するものと認められる。</p> <p>第1章の結果に基づき、第2章と第3章では、全国的に流布した物語が、湖南省で独自に改編され発展して出版される様相について、第4章と第5章では、湖南独自の社会背景から発生した物語シリーズを取り上げ、その出版文化の特色を考察している。</p> <p>第2章では、明の南戯に取材する「秦雪梅」故事をモデルとし、その物語伝承に古い系統と新しい系統があり、古い系統が淘汰され、新しい系統が定着していく過程で湖南説唱本の流布が大きく影響していたことを物語内容の詳細な比較検討から、明らかにした、</p> <p>第3章では、結ばれぬ恋人同士が何代も生まれ変わって悲恋を重ねる「多世姻縁」の物語群を対象として、</p>	

従来個別に伝承されてきた悲恋物語が、湖南説唱本の出版においてシリーズにつながり合わせられ、一種の小説類型として再生されるプロセスとその背景となる出版界の動向を明らかにした。

第4章では、湖南説唱本独自の題材として、太平天国の乱を背景とした「私訪」故事を取り上げ、その地域化のプロセスを明らかにした。著名な歴史人物がお忍びで各地を歴訪する「私訪」故事は、古くからある物語ジャンルの一つであるが、太平天国の乱という時事性を背景とし、湖南省出身の著名人物が湖南省各地を歴訪する「湖南化」の様相を解明することにより、伝統的な物語の枠組みを活用し、地域文化が何を基準にどのように地域独自の物語を作り上げるのかという物語の生成モデルを提示した。

第5章では、主人公が複数の妻を得るという「美凶」故事を取り上げ、その物語が「湖南化」され、物語シリーズとして定着していく様相を、上海の出版界との交流による湖南省の出版活動の地域性と独自性から明らかにした。これらの考察から、本論文は、中国の中央部に位置する湖南省が単に物流の通過点としてのみ存在したのではなく、独自の地域文化の構築と発信力を備えた民間文芸の拠点でもあったことを、具体的に論証したのである。また、古くから全国的に流布した中国文学の代表作『三国志演義』が、湖南説唱本でも改編され出版されたものの、大きな出版ブームにはならなかった要因として、そこに「湖南化」できる要素が見いだせなかったためとの指摘も興味深い。本論文の考察は、清末各地に勃興した諸種説唱が、現代に継承される物語の流布にあたって、何をフィルターとして、いかなる取捨選択が行われたか、という問題にも関わる。

以上のように、本論文は湖南説唱本が、地域独自の出版活動の様態を背景とし、物語の地域化を主旨とした改編を行い、物語形態のパターン化、シリーズ化が促進されることによって、流行を築き、物語の継承と流布を強力に推進した実態を明らかにした。こうした現象は、清末民初を経て中国の物語が現代へと継承されていく中で、説唱文芸が果たした役割を考えるモデルを提供するものであり、従来看過されてきた湖南説唱本の説唱文芸史における価値と意義を新たに提示したものと見える。湖南地域の独自性をより明確にするために、本論で取り上げた上海のみならず、文化交流のあった広東など他地域との比較も望みたくるところではあるが、それはむしろ今後の課題とすべきもので、本論文の豊かな発展性を示すものといえる。本論文が各章で取り上げたモデルケースは、十分に湖南説唱本の形成と流布の過程や特色を示すに説得力のあるもので、全篇に亘って新たな知見が少なくない。これまで必要性に言及されながら、研究されてこなかったテーマの基礎研究を打ち立てた本論文は極めて意義のある力作といえる。よって、早稲田大学の課程による博士（文学）の学位を授与される学術的価値を有すると判断する。

公開審査会開催日	2015年 6月 13日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	博士学位名称	専門分野	氏名
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授		中国白話文学	岡崎由美
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	博士(文学)早稲田大学	中国言語学	古屋昭弘
審査委員	東京大学・教授	博士(文学)東京大学	明清文学	大木康
審査委員				
審査委員				